

# 今泉力哉監督史上最高傑作の呼び声 各界絶賛、日本中が「アンダーカレント」に浸る

※五十音順・敬称略

今泉サスペンス、下腹に効く不意打ち。  
舌先で凍りついた言葉、  
人肌で溶かされ声となって聞こえてくる。  
—犬童一心 映画監督

観る哲学だった。ファンにとって聖域のような  
原作を、映画化した今泉監督の覚悟が伝わってくる。  
細野晴臣氏の音楽もあまりに素晴らしい。  
—犬山紙子 イラストエッセイスト

わけのわからない自分と向き合い、  
わかるわけもない他人とともに、生きていくしか  
ないのだ。なんだかそう身につまされて、  
心がぎゅっとなった。  
—宇垣美里 フリーアナウンサー・女優

今泉力哉監督の静謐ながらも  
圧巻の人物描写で「人をわかる」とはどういう  
ことなのかを感覚的に教えてくれる作品。  
—遠藤千里 FILMAGA 編集長

「本当のこと」について描いた原作の物語が、  
映画という形式で生身の肉体をもって  
新たに語り直されること。それはこの物語に  
とって、とても幸福なことなのではないか。  
—大白小蟹 マンガ家・イラストレーター

水中に漂う無数の泡。  
アニメ「銀河鉄道の夜」のあるシーンを  
思い出したのは、どちらも音楽が  
細野さんだからなのかもしれない。  
—大橋裕之 漫画家

ハナコ岡部の奥にいる岡部大はどんな人間だったか。  
大切な人と、自分自身と、改めてもっと向き  
合ってみよう、話をしようと思いました。  
—ハナコ 岡部大 芸人

登場人物の些細な心の動きは、普段は  
忘れていた疑問を呼び起こす。とても繊細で、  
大切な空気感を閉じ込めている作品。  
—オカモトコウキ [OKAMOTO'S] ミュージシャン

傑作マンガの新たな解釈に出会ったよう。  
「人をわかるってどういうことですか？」  
その答えを、いつまでも考えてしまいます。  
—尾崎南 映画ナタリー

美しい映像、美しい真木よう子さん、そしてもし自分  
の近くの人が…と少し怖い想像をしてしまう物語。  
観るのをオススメします！  
—かが屋 賀屋壮也 芸人

ある程度の年齢になって疼き始める、伏在していた  
憂い。主人公にいつのまにか  
自分を重ねていました。観てよかった。  
—川上洋平 [Alexandros] ミュージシャン

根本から凝り固まった思考をマッサージされ  
るような映画。是非カップルで観てほしい、鑑賞後  
の話し合いはいつもより濃厚になることでしょう。  
—パンサー 菅良太郎 芸人

私は真木よう子さんのファンです。  
この作品では抑えに抑えた演技、  
それが、現実感と深みを与えています。  
ますます彼女のファンになりました。  
—久米宏 フリーアナウンサー

得てしてこの空白を、私は言い表せないでいる。  
折り重なっていく人間の、人生の模様。  
アンダーカレントという言葉の意味を、  
改めて反芻している。  
—崎山蒼志 シンガー・ソングライター

静かな物語が力のある画のなかで選ばれていく  
心地よさと居心地の悪さの快感が、  
深い余韻を残すラストに導いてくれる。  
—高田亮 脚本家

分り合えないからこそ、  
人は寄り添い合えるのかも知れない。  
暗い川底を覗くかのようにそんな人の奥底を  
映し出す、心剥き出しの物語。  
—辻愛沙子 株式会社area CEO & Creative Director

この映画の謎は  
誰の心の奥底=アンダーカレントにもある  
ものかもしれません。“どこかの誰かの話”だと  
思っただけに行くと衝撃を喰らいます。  
—中谷祐介 ぴあ編集部

流れる、風景も音も感情も、僕には心地よくて、  
ずっとそこに浸っていたい気持ちになった。  
ああ、もう一度、映画館で観たい。  
—藤原季節 俳優

人々の感情に寄り添い、掘り取ろうとする  
今泉監督の演出。人と人との関わりが薄くなり  
つつある今の時代に、是非見てほしい作品です。  
—松本優作 映画監督

好きなマンガの映画化には期待より不安が上回る。  
が、それは杞憂だった。マンガと映画の  
幸福な出会いがここにある。  
—南信長 マンガ解説者

自分と向き合い、自分の心には偽ってはいけないと  
思う。強く生きていく必要はない。自分に正直に  
生きたいと思わせてくれる作品です。  
—宮沢氷魚 俳優

他人の事がわからないからこそ  
わかろうとする時間を手放してはいけない。  
「人をわかるってどういう事ですか？」  
この台詞が頭から離れない。  
—パンサー 向井慧 芸人

自著の「ちひろさん」に引き続きまたまた美味しい  
料理に仕上がっていた「アンダーカレント」を  
観てなんだか自分も誇らかったです。  
—安田弘之 漫画家

他人をわかりたくて、わかろうとして、  
わからないってことを、わかりあう。  
そうやって見つけた「わからない」は最初よりも  
ちょっとだけ優しく、ちょっとだけ息がしやすい。  
—山中拓也 ゲームクリエイター／脚本家



10.6 [金] 心が、漂う。

ムビチケカード発売中! ¥1,500(税込)  
※数量限定/一部劇場を除く ※販売は10月5日(木)まで



undercurrent-movie.com  
X @undercurrent\_m  
f @undercurrent.m

世界の心を揺さぶる  
伝説の名作  
遂に映画化!

“漫画界のカヌヌ映画祭”  
仏アングレーム国際漫画祭  
オフィシャルセレクション

2023年  
バンクーバー国際映画祭  
パノラマ部門正式出品作品

主演  
真木よう子

「さよなら渋谷」

×

監督

今泉力哉

「愛がなんだ」

×

音楽

細野晴臣

「万引き家族」

×

原作

豊田徹也

「アンダーカレント」

アンダーカレント

真木よう子 井浦新

江口のりこ 中村久美 康すおん 内田理央

永山瑛太 リリー・フランキー

脚本：澤井香織 今泉力哉

配給：KADOKAWA ©豊田徹也 講談社 ©2023「アンダーカレント」製作委員会

undercurrent-movie.com

10.6

F  
R  
I